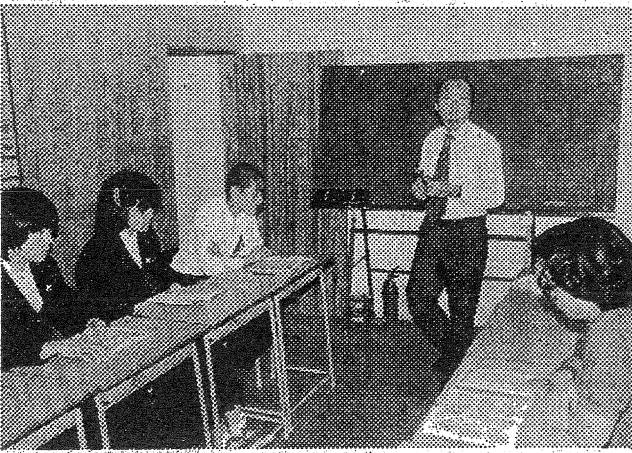


# なぜ英語が話せないの

## 会話上達法—第三部—

英語を習うなら米英人に限る。あまり上達しなかった。と考えている人がいる。確と嘆きの声も聞かれる。かつてかに発音やヒアリング、正しい米國に留學した久留米市の会社英語の學習に、これほど優れた員も同じ経験をした一人だ。教師はいない。だが、半面、「ミシガン大学生三人と二つ年間、アメリカ人に英語を習う」の部屋で十一月、生活し



英会話は発音、語法、表現力などに優れた日本人から習うのがベターと語る戸田先生

た。最初はこちらの発音が悪いと矯正してくれた。毎日会話の特訓を受ける感じで、大いに役立ちました。でも時間がたつにつれ、相手は私が不完全な英語を話しても以心伝心、その意図をとらざるに理解するようになる。カタコト英語でも十分になるわけです。そうなれば会話力の進歩はストップ。他のアメリカ人との会話はそうはいかず、これではいけないと真剣に悩みました」

戸田昭二・実践英語ゼミナー学院長  
「英会話の先生を選ぶ場合、ネイティブ・スピーカーより、発音、表現力、語法、外国の習慣にも通じた日本人の方がベターだ」と指摘する。  
米國では、標準語圏である中西部、早口でまくしたてるニューヨーク、日本人には理解が容易でないナマリをもつ深南部の英語……と同じ米語でも随分、違った印象を受ける。滞日中の

アメリカ人の出身地はさまざまであり、中には母國語でありながら不完全な英語を話す者も少なくない。  
「特に英会話の初心者か、いきなり外人の先生から習うのは考えもの。会話の基礎がないから、先生の選状が大きなカギを握っている、といえよう。」

## カギ握る先生の選択 忍耐強い努力が肝要

ら、意思の疎通が出来ず、自信喪失に陥る。幼児や小学生くらいなら、外人教師の方がいいが、盲信的に英会話は外人からというのは再考を要する」と、戸田先生は言う。  
「もちろん、どちらも理想的な外人教師の方が日本人教師より優れているのは当然。ただ日本人の先生は、日本人の英会話の欠点を熟知しているだけ有利」である。問題は、日本人の欠陥を克服してくれる実力を備えた日本人の英会話の先生が極めて限られていること。会話上達には、先生の選状が大きなカギを握っている、といえよう。」

「英会話は、カセットなど視聽覚機能が発達した現在、教師なしでも十分、独学できる。自分の英語の実力より一まわりか二まわり低いレベルの英文を繰り返し朗読し、試みに教科書の各レッスンを音回ほど音読してこらなさい。とにかく、忍耐つよい努力が肝要」である。  
外人英会話教師も満足にいなかった明治時代、日本には國際的な仕事を國際舞台で、外國語を使つて堂々とやるのける人たちが自立つた。「茶の本」(The Book of Tea)を書いた岡倉天心、それに内村鑑三、國際連連の事務局次長だった新渡戸(にどべ)稲造、昭和五十九年から五千円札の顔として登場するらである。彼らの努力は大したもので、英会話で大切なのは会話教師がどうのといった学、方法より、むしろ本人の意志の固さである、と考へてかかせている。